

# チャレンジ!

平成28年度  
研究通信  
研究部  
H28,7,20 発行

## 第1回全校授業研究会

～小学部1～3年 生活単元学習～

7月6日(水) 特別支援教育課指導主事、高田屋陽子先生を助言者に、小学部の全校授業研究会を行いました。グループ協議では、「人的環境の整備」「物的環境の整備」「学習活動」の各視点で協議をしました。短い時間の協議でしたが、活発な意見交換がなされました。ここで出された課題や改善点を日々の授業の中でも意識して指導を行っていきましょう。

### グループ協議から



#### 人的環境の整備

##### ○TT間の役割分担

- ・個別の支援をしても、全体に目を配り、即時評価や適時具体的な指導を行う。
- ・場面ごとのねらいを共有することで、TT間の連携が図られる。

##### ○発問の仕方

- ・子どもに気付かせたいことのポイントを絞る。
- ・気付かせたいポイントへの発問の仕方をTT間で統一する。
- ・「ピザを丸くするのは何のためか」「招待するためにうまく作るのか」「上手に作れたから招待するのか」など、授業のねらいを明確にすることで、発問も精選される。

#### 物的環境の整備

##### ○教材・教具等の工夫

- ・車椅子の児童の教具は、OT・PTや自立活動コーディネーター等と連携して作成する。

##### ○ねらいに沿った教材・教具

- ・ねらいに沿って道具の数の調整をしたり、児童が選択できるように道具の種類を増やしたりする。
- ・「丸いピザ」にするため、それぞれの児童にとって「できた」が分かりやすい教具の準備。

##### ○環境設定の工夫

- ・「関わり」をねらうのであれば、役割分担をして流れ作業でピザを作るのも良い。
- ・道具の使い方を押さえる。ハンマーはたたくもの、めん棒は伸ばすもの、使い方のコツなど。
- ・児童の「やってみたい」を高めるために、わくわくするような演出をする。例えば、焼き上がりの喜びをみんなで共有する場面、会食でBGMを使用するなど。

## 学習活動

- ・活動の中心をどこに置くのか、山場をどこにもってくるのか整理する。小学部低学年にとっては、「招待する」「ピザを作る」のどちらかに絞ったり、招待するにしても会場は準備しておいたり活動をシンプルにすることで、児童のねらいも絞られ、発問や教材・教具も具体的になってくる。
- ・本時が単元の後半の授業であることから、導入で押さえることはポイントを絞り、コンパクトに伝える。学習活動の積み重ねの中で、本時はここをしっかりと押さえない！！を明確にすると、めあてがはっきりして、その時間の評価の観点も具体的になる。
- ・各活動のデットラインを決め、活動を進めていくことも大事である。

## 指導助言 特別支援教育課指導主事 高田屋陽子先生

### ○指導案について

生活単元学習の基礎・基本を押さえた指導案であった。前単元とのつながりや、単元の中で様々な内容を体験的、総合的に学ぶことができ、その中で児童が関わり合って課題解決をしていくということが盛り込まれていた。

### ○学習活動について

活動内容を絞る。活動の焦点化をする。低学年の実態も考え、山場をどこにするか絞ると、導入で児童に伝えることも絞られる。どの場面で児童に考えさせるたいのかもはっきりする。

### ○めあてについて

めあてを提示するタイミング。「丸いピザ」に焦点を定めていたのなら、ピザを作る時に提示しても良かった。ただし、今回の個々の目標の中に「丸いピザ」を設定していたのは一人だった。子どもたちの活動を見取って、子どもに返しているか確認していくことが大事である。

### ○車椅子の児童について

Kくんは、目と手の協応動作に課題がある。今回のねらいは、「目で見ること」「手を使うこと」「目で見ながら手を使うこと」どれにするかで、教具も、支援の仕方も変わってくる。Hさんは看板作りの際に、刷毛を使って一生懸命色塗りをしていた。得意なことを生かした活動も取り入れていくと良い。

### ○授業研究会について

教育課程改善は、日々の授業実践がつながっている。今回のように、視点を決めて協議を行い自分だったらどうするかという視点で話題提供しているのは、大変良い。生単プロジェクトに参加した教員の活用は、生活単元学習のガイドの活用と共に、今後行ってほしい。

今回の授業研究会では、**ねらいの吟味と学習活動の精選** がキーワードとしてあがりました。**生活単元学習ガイドP7～P8**を是非読んでみてください。生活単元学習のガイドは各学部に一冊あり、データは業務共有フォルダ→授業づくり役に役立つ資料フォルダにあります。